

参加者の声

THANKS! & EVENT DATA

2日間を通して、延べ94名の方にご参加いただき、盛会裏のうちに大会を終えることができました。各方面から様々な方々のご協力・ご参加をいただき、とどこおりなく大会を終了できたこと、事務局一同感謝申し上げます。

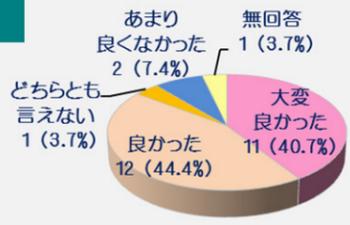
参加者の居住地別内訳

仙台市内からの参加が34%と最も多い。地元である加美町内からの参加が24.5%と、前回の栗原大会に比べて少ない傾向であった。



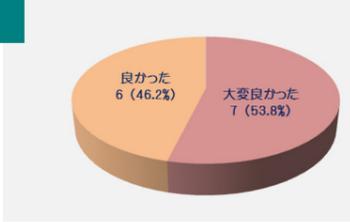
基調講演・鼎談の内容

85%が、「大変良かった」「良かった」と回答。主な感想：街道から宮城県の古代の歴史学ができて良かった／身近にこんなに素晴らしい歴史的遺跡があることを誇りに思いました。



探訪会Aコース

参加者全員が、「大変良かった」「良かった」と回答。主な感想：一人ではなかなか歩けないコースでガイドの話も興味深く、大変ありがたい企画でした。

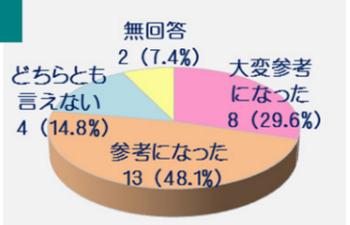


内容別参加者数の内訳

内容	一般	会員	計
第1部: 交流大会	55	30	85
第2部: 街道談義	25	25	50
街道探訪会: Aコース	13	11	24
Bコース	18	17	35
宿泊者	13	23	36
延べ参加者 (重複を除く)	60	34	94

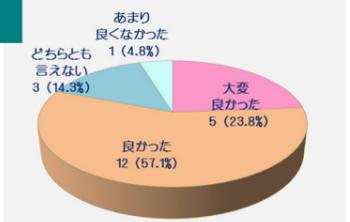
活動報告の内容

78%が、「大変良かった」「良かった」と回答。主な感想：実に多くの活動があり今後が楽しみである／各々熱心に活動されている様子が伝わってきた。



探訪会Bコース

82%が、「大変良かった」「良かった」と回答。主な感想：かねてから関心のあった遺跡群をまとめて見学でき、また解説も的確で大変勉強になりました。



EVENT INFORMATION

イベントのお知らせ

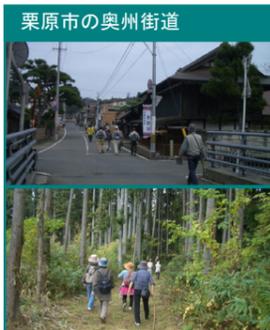
※イベントの詳細は、みやぎ街道交流会事務局までお問い合わせください。

3月26日(土)

「栗原歴史散歩」

栗原市の奥州街道を歩く探訪会です。定員は60名の予定です。プログラムの詳細内容は決まり次第ご報告します。

写真：「奥州街道有壁宿時代散歩」の様子 (H22. 10. 24)



3月19日(土)もしくは20日(日)

栗原市内旧街道の刈り払い

一昨年に刈り払いをした首欠け地蔵尊跡から新鹿野市道までの区間について、再度の刈り払いを行います。日程は決まり次第ご報告します。



NEXT INFORMATION

編集後記・次号予告

交流会ニュース第15号・in加美レポートダイジェスト版はいかがだったでしょうか。昨年in加美では、地元の方々の既存の活動を県内外へ発信する場となるよう、講演会や探訪会の企画を作り上げました。仙台方面から多数の方に参加いただけたこと

で、加美地方に残る貴重な歴史の存在や、熱心な地元の活動の様子を知っていただく良い機会になったものと思っています。また一方で、この資源や取組みをどのように地域づくりにつなげるかが、今後の課題になると感じました。みやぎ街道交流会では、第1回交流大会を開催した栗原市と同様に、今後も加美地方の方々と連携して取り組んでいきたいと思っています。

さて、次回交流会ニュースは、4月下旬・桜の頃の発行を予定しています。次回ニュースをどうぞ楽しみに。(ニュース編集担当・くり)

お詫び
このたびは交流会ニュース第15号の発行が予定より遅れましたこと、毎号楽しみにしてくださっている会員の皆さまには、深くお詫び申し上げます。

in加美レポート ダイジェスト版

みやぎ街道交流会ニュース

第15号 2011年2月16日発行

ニュース第15号は、昨年10月に宮城県加美郡加美町で開催した「みやぎ街道交流会第2回交流大会 in加美～加美地方から見える東北～」報告書ダイジェスト版でお届けします。

主催者挨拶

関心・興味・活動、そして仲間づくりへ

みやぎ街道交流会 会長 高倉 淳 氏

本日は、県内外の各地から多くの方々にお集まり頂きまして、お礼申し上げます。

みやぎ街道交流会が発足したのは、平成19年5月でしたので、今年で足かけ4年という事になります。

その年の11月、第1回の交流大会「in栗原」を栗原市で開催し、大いに盛会でした。

これをきっかけに、栗原では、色々な活動が続けられております。例えば、栗原市若柳有賀の農家に伝わる150年前の料理に関する古文書「大秘方萬料理方全」を解説、研究しまして、その料理を地元の奥さんたちが再現し、地域の食育や地域づくりのプロジェクトへと繋がりました。

また、昨年12月の雪が降る中、栗原の方々と一緒に計60名で、奥州街道の刈り払いを行いました。これまで篠竹などが密生して歩けなかった藪道が快適に歩けるようになるなどの活動が行われました。奥州街道によるこれからの街道ツーリズム事業を非常に楽しみにしているところです。このように、これまで栗原や七ヶ宿など各地で、街道の歴史やネットワーク性を生かした様々な活動を実施してまいりました。

いよいよ本日は、第2回目の交流大会が加美町で開催されます。この加美地域は、歴史の宝庫です。掘り起こせばいろいろな分野でキラキラと光るものが沢山出てまいります。しかも、ここには、この大会を共催する「最上海道研究会」という熱心な街道の組織もあります。

共催者挨拶

最上海道研究会 会長 吉岡 博道 氏



開会式で挨拶をする吉岡会長の様子

加美町には、奈良時代から平安時代前期にかけて、多賀城国府と密接な関係があった東山官衙遺跡、檀の越遺跡、城生柵跡、名切谷廃寺跡があります。また、軽井沢最上海道、田代街道、寒沢道と、山形へ行く街道が3本もありました。それぞれに番所が設置されまして、多くの人馬が行き交いました。古代には軍用路として、それ以降は、人や物資が行き交う交易の道や湯殿山参詣の道として大いに賑わったのですが、明治以降は役割を終え、人々の記憶から消えようとしていた道でもあります。このような中、地元の歴史研究者である本田一郎さんが、長年の調査研究を経て、平成19年に『蘇れ！最上海道』を発刊し、最上海道が注目されるようになってきました。我々は、正確な歴史認識をもち、この素晴らしい貴重な遺跡や街道を守り保存し、後世に伝えていく使命があると思っております。平成16年、熊野古道が世界遺産に登録されたこともあり、全国的に古道ブームがやって参りました。それがただのブームに終わらないよう、しっかり足下を見据え、地道にこれからの活動を進めていかなければならないと思っております。(共催者挨拶より抜粋)

来賓挨拶

加美町 町長 佐藤 澄男 氏



開会式で挨拶をする佐藤町長の様子

我々が生き、活動して行く時、その原点をどこに見出すかということは、最も尊重すべきことと思っております。そのような意味で、家庭にあっては父親、おじいさん、おばあさんから学びとる。あるいは地域の古老の話に耳を傾けるといったことが非常に大事な時代になってきたと考えております。戦後、経済的な面を追及するあまり、心のよりどころを失ってきたのではないかと、最近の事件、ニュースや政治経済問題を見るにつけ、深く感じているところでもあります。したがって、自分たちの先祖は、あるいは先人たちは何を残したのか。そして、その時代にどのような社会を望んだのであろうかといったことを考える時に、街道をとした交流というものがあるべきではないかと、それを越えた物的交流、人的交流、さらにそこから得る文明や情報の多彩さ、こういったものが、地域の人たちに少なからぬ影響を与えたことは間違いのないと思っております。(来賓挨拶より抜粋)

基調講演・鼎談

『東山官衙遺跡など
加美地域の遺跡や
玉野新道は、
何を語るのか』



左から、白鳥氏、齊藤氏、安藤氏

奈良～平安前期、朝廷の蝦夷政策として加美地方に設けられた東山官衙遺跡などにみられる城柵官衙や、天平9年に大野東人が切り開いた色麻柵から大室塞(尾花沢市)に至るいわゆる「玉野新道」は何を物語るのか? また、現代の我々はこれらから何を学び、これからの地域づくりにどう活かしていけるのか…。このような切り口のもと、長年の多賀城跡や東山官衙遺跡などの関連する城柵官衙の調査研究の経験をお持ちの白鳥良一氏と、壇の越遺跡の発掘に実際にたずさわられた加美町教育委員会の齊藤篤氏を迎え、お二方の講演とともに、みやぎ街道交流会の安藤美樹氏が進行役となって鼎談が進められました。



講演をするステージ上の白鳥氏と、熱心に聞き入る会場の参加者の様子

活動報告

『街道をめぐる取り組み報告』

最上海道研究会 / 研究・交流・散策の3つの目標を掲げ、H20年11月に設立



藤井 慶吾 氏

「最上海道研究会」は、平成20年11月の設立以前から最上海道に関わるグループや個人が活動をしており、その発端は平成18年10月、山形県村山市の袖崎地区市民センターの方々が「最上海道散策研修会」で上ノ畑から漆沢までを歩き加美町長ほか関係者との意見交換を行ったが始まりだそうです。その後も、講演会や探訪会を開催しながら、山形県側との交流を深めてこられました。活動報告の結びでは、「設立時に掲げた“研究・交流・散策”の3つの目標のもと、今後も充実した内容で研究や活動に取り組んでいきたいと今後の抱負を語られました。

軽井沢越大室研究会 / 足掛け6年、これまで80項目にわたる活動を実施



平山 繁 氏

山形県村山市の大字土生田(とちうだ)からお越しいただいた、「軽井沢越大室研究会」。学術的な研究ではなく、古道を訪ね歩くという体験を研究姿勢として、これまで宮城、秋田、新潟と、大室に関する様々な所を歩いて来られたそうで、実際に体感することにこだわり、軽井沢最上街道を含めた土生田から多賀城までを3度に分けて歩かれています。また、取り組みの中では、歴史の道に関わる近隣の方々との交流も重要視しているとのことでした。

くりはら街道会議 / 平成20年2月、約10人のメンバーで「くりはら街道会議」がスタート



二階堂 秀紀 氏

栗原市内には、奥州街道、佐沼街道、小安街道、文字街道、羽後岐街道、そして芭蕉の通った上街道の6本の街道が通っています。これらの街道を地域おこしにいかに関与するかということで活動が始まったそうです。その後、「みやぎ街道交流会」や「奥州街道会議」と連携し、青森、岩手、栗原を舞台にした街道ツーリズムネットワーク事業として、街道ガイドの養成や道しるべの設置、刈り払いなどを行っています。街道を歩く方々をおもてなしするための体制として、くりはら街道会議が機能していきたいとのことでした。

街道談義

加美地域の郷土料理と県内外各地の地酒により
交流を深めました。



地元3銘柄を筆頭に恒例の地酒自慢



農家レストランの方に準備いただいた郷土料理の数々



50名が参加し、会場は満席

プログラム

10/2(土) 交流大会・街道談義 加美町中新田交流センターにて

交流大会[多目的ホール]

- オープニングセレモニー13:00~13:20
 主催者挨拶 みやぎ街道交流会 会長 高倉 淳
 共催者挨拶 最上海道研究会 会長 吉岡 博道 氏
 来賓挨拶 加美町 町長 佐藤 澄男 氏
- 基調講演・鼎談13:30~15:30
 『東山官衙遺跡など加美地域の遺跡や玉野新道は、何を語るのか』
 元宮城県多賀城跡調査研究所 所長 白鳥 良一 氏
 加美町教育委員会 係長兼学芸員 齊藤 篤 氏
 みやぎ街道交流会 事務局(聞き手) 安藤 美樹 氏
 (休憩 15:30~15:45)
- 活動報告15:45~17:15
 『街道をめぐる取り組み報告』
 最上海道研究会 (加美町) 藤井 慶吾 氏
 軽井沢越大室研究会 (村山市) 平山 繁 氏
 くりはら街道会議 (栗原市) 二階堂 秀紀 氏
- 街道パネル展
 多目的ホールにおいて「街道関係パネル」を展示

街道談義[食堂ホール]

加美地方の郷土料理と県内地酒による交流会18:00~20:00

大会報告

平成22年10月2日(土)~3日(日)の日程で開催した「第2回交流大会 in 加美」。2日間の大会の様子をご紹介します。

探訪会 Aコース

『軽井沢越最上海道』

Aコース「軽井沢越最上海道」は24名の方が参加しました。午前9時20分、漆沢・山神社前を出発。すぐに急な上り坂がありますが、その後は比較的平坦な道のがつづきます。30分の昼食休憩をとりながら、12kmの道のりを歩き、約5時間半でゴールまで到着しました。



9時35分 急な上り坂の桐ヶ窪坂



10時40分 プナ林の中を歩く

探訪会 Bコース

『東山官衙遺跡と関連遺跡』

Bコース「東山官衙遺跡と関連遺跡」は35名の方が参加しました。前日の講演・基調鼎談に出演いただいた、加美町教育委員会の齊藤篤さんのガイドのもと、加美町内の遺跡や史跡などの現地をバスで巡りました。



賀美石公民館・東山官衙遺跡の資料室



城生柵跡(国指定史跡)



壇の越遺跡にて/齊藤さんの説明を聞く



11時15分 長沼林道からの眺め



13時15分 軽井沢番所跡



12kmの道のりを歩ききった記念撮影

10/3(日) 街道探訪会

街道探訪会 Aコース

軽井沢越最上海道8:30~16:30
 案内者: 吉岡善太郎氏・渋谷富士雄氏/最上海道研究会

中新田交流センター発 ⇒ (バス移動) ⇒ 漆沢・山神社口 ⇒ 高畑山 ⇒ 長沼林道駐車場(昼食) ⇒ 名月峠 ⇒ 軽井沢番所跡 ⇒ 天沼 ⇒ 上野畑・林道口 ⇒ (バス移動) ⇒ 中新田交流センター着

街道探訪会 Bコース

東山官衙遺跡と関連遺跡8:30~12:30
 案内者: 齊藤篤氏/加美町教育委員会

中新田交流センター発 ⇒ 河岸端(車中説明) ⇒ 中新田城跡 ⇒ 城生柵跡 ⇒ 賀美石地区公民館 ⇒ 東山官衙遺跡・壇の越遺跡 ⇒ 松本家住宅 ⇒ 中新田公民館(昼食) ⇒ 中新田交流センター着
 ※全行程バス移動